

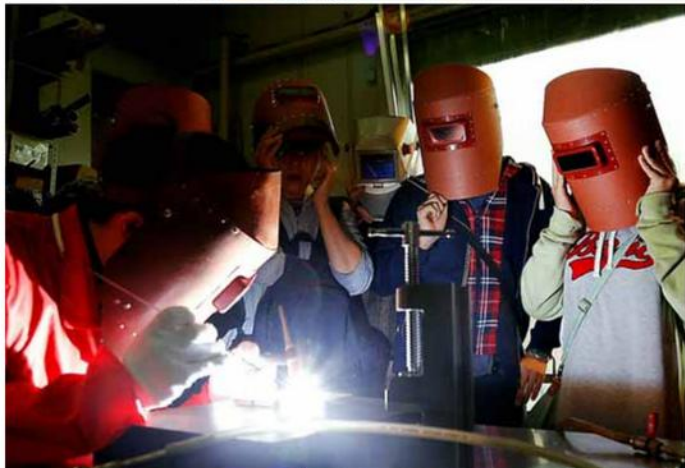
オープン町工場 魅力発信

■首都圏の主なオープンファクトリー

イベント名	(開催地)	初開催	特色や次回予定
モノマチ	(東京都台東区)	2011年5月	約200の職人やクリエイター、店舗などが参加。工房見学や街歩きが楽しめる。次回は来年5月22～24日
おおたオープンファクトリー	(東京都大田区)	12年2月	下丸子・武蔵新田エリアに、海寄りの工場アパート2カ所が加わり、約40社が工場公開。次回は来年11月ごろ
スミファ	(東京都墨田区)	12年11月	工場公開のほか、デザイナー、「ものづくり女子」向けの見学ツアーも。次回は来年11月ごろ
港北オープンファクトリー	(横浜市港北区)	13年2月	次回は地区別で来年1月17日、31日、3月7日に金属加工や機器製作など計8社が見学受け入れ。要申し込み
A-ROUND (エーラウンド)	(東京都台東区)	13年5月	浅草エリア。靴や革小物のものづくり体験などのほか、飲食店も数多く参加する。次回は来年春または秋
川崎北工業会オープンファクトリー	(川崎市高津区)	13年11月	今年10月の第2回は金属加工、機械製作、印刷など12社が参加し「工場探検ツアー」を実施。次回は未定

「商品化や雇用につながるならば」と様々な見学ツアーが用意された「スミファ」。見学者は鋳物工場の雰囲気息をのみ、夢中でシャッターを切った。11月15日、東京都墨田区

「おおたオープンファクトリー」で、熟練工の溶接技術に見入る来場者。11月29日、東京都大田区



④「おおたオープンファクトリー」の「仲間回しラシー」で「へら絞り」と呼ばれる金属加工を体験する女の子。棒状の工具を押し当てると、丸いステンレス板がぐにゃりと曲がり、ミニフライパンの本体になった。⑤参加者が作ったフライパン。11月29日、東京都大田区。写真はいずれも関田航撮影



町工場などを地域住民らに一斉公開するイベントが近年、首都圏各地で相次いで開かれている。「オープンファクトリー」などと呼ばれる、日頃は立ち入れないものづくりの現場の見学が人気だ。地場産業の技術を広くアピールし、街の魅力アップに一役買っている。東京都大田区で11月29日に開かれた「おおたオープンファクトリー」。あいにくの雨だったが、過去4回で最多の約2千人が、一般公開された約40社の町工場を訪れた。

体験企画の「仲間回しラシー」にも人だかりができた。「仲間回し」とは、町工場が得意な技術を持ち回りでこなして製品を完成させる連携プレー。参加者は同区内の東急多摩川線の下丸子・武蔵新田両駅周辺の4カ所を回り、ミニフライパン作りを体験。熟練の職人に教わりながら、ステンレス板の加工、取っ手やプラスチックカバーの製作、溶接の工程に挑戦。公開は、町工場の産業観光を模索する

職人巡り技術体験 地域と共生PR

動きから発展した。首都大学東京や横浜国立大学などの研究者や学生たちが実現に尽力した。港北区役所区が会場周辺の町工場は住宅街に点在する。普段は作業音や臭いへの配慮、企業秘密の保護のため、多くが出入り口やシャッターを閉め切ったままだ。

近くの会社員片岡範康さん(44)は「近所に町工場は多いが、どこか遠い感じだった。子どもがものづくりに接する良い機会ができた。プラスチック切削加工会社社長長柳久仁夫さん(6)は「工場公開は隣近所に安心感を与えられるのでは」と言う。

神奈川県東部で始まった「港北オープンファクトリー」(横浜市港北区)と、川崎北工業会オープンファクトリー(川崎市高津区)は、「町工場と住民の共生」という狙いがより明確だ。

金属加工などの製造業が盛んだったが、町工場が激減する一方、その跡地などにマンションや戸建てが次々に建つ。

「誇れる地場産業として住民に紹介し、融和を図りたい」と港北区役所区政推進課の竹下幸紀課長。古くからものづくりが盛んな東京都東部でも、地域色豊かなオープンファクトリーの開催が相次ぐ。

2011年5月に台東区の御徒町、蔵前近辺の「徒蔵」エリアで始まった「モノマチ」は、すでに6回を数え、3日間で延べ10万人が訪れることもあるイベントになった。アクセサリーやかばん、伝統工芸、革小物など多種多様なものづくりの体験や見学ができる。

近くの浅草エリアで開かれる「エーラウンド」は、靴やベルト、名刺入れなど皮革製品が人気を集める。体験や見学のほか、買い物客でもにぎわう。墨田区の「スミファ」は今年11月に3回目があり、12社の町工場が参加し、工場見学などを受け入れた。デザイナーやクリエイター向けの見学ツアーも用意した。

大都市以外でも、新潟県燕市と三条市の「燕三条 工場の祭典」は、金属洋食器や刃物などの工場に多くの人が訪れる。同様の動きは今後、各地の「ものづくりの街」に広がりそうだ。(関田航、武井宏之)

©朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。